

元教団牧師・岩本氏、 日本キリスト教団の脱会工作の実態を語る

要点

- 元日本キリスト教団牧師の岩本龍弘氏が三枝氏のインタビューに応じ、辺野古抗議船転覆事故を契機に教団の左傾化と内部実情を証言した
- 教団主催の慰安婦集会で尹美香氏と接触したエピソードや活動家牧師の実態を語った
- 旧統一教会への「保護説得」は多額の謝礼金を伴う拉致監禁・強制棄教であったとし、岩本氏は「教義等には反対」としつつ「信教の自由を不法に奪う手法」を批判
- 後藤徹氏 12 年 5 ヶ月監禁を「拉致ビジネス」と位置づける証言は、解散命令議論への当事者外側からの問題提起となる

元日本キリスト教団牧師の岩本龍弘氏(通称「ドラゴン牧師」、現・YouTube「ドラゴン牧師チャンネル」)が、三枝氏のインタビュー番組(2026年4月公開、youtu.be/8kF4dUbwMrU)で教団内部の実情を証言した。辺野古沖の抗議船転覆事故(教団牧師と同志社国際高校生の死亡)を契機に「なぜ教団が左翼的政治運動にのめり込むのか」を主題とする対談である。

教団左傾化と活動家牧師

岩本氏は、教団が1969年頃から極端に左傾化し、西中国教区などでは専属の活動家を雇って米軍基地反対運動を展開してきたと指摘する。同氏によれば、阪神淡路大震災時には活動家牧師が関西学院大学理事会で構内への仮設住宅建設を強要した事案もあったという。同氏は同志社大学に残った中核派系の影響力が教団の政治運動を駆動したと分析する。

慰安婦集会と尹美香氏との接触

岩本氏は高知の教会在籍時、教区社会部主導で慰安婦集会が開催されたと証言する。同氏によれば、後に韓国国会議員となり寄付金流用疑惑が報じられた尹美香(ユン・ミヒャン)氏が、元慰安婦とされる人々を引率していたという。岩本氏は尹氏を「韓国の牧師」として紹介され名刺交換まで行ったと振り返り、自らの「黒歴史」と位置づける。

「保護説得」の実態 — 拉致監禁・強制棄教

岩本氏が現在最も問題視するのは、教団が旧統一教会(現・家庭連合)に対して組織的に主導してきた「保護説得」の実態である。同氏は当初これをボランティア活動と認識していたが、実際には多額の謝礼金を伴う拉致監禁・強制棄教が行われていたという。具体的事案として、信徒を12年5ヶ月にわたり拘束した後藤徹氏監禁事案を挙げ、これら脱会工作を「拉致ビジネス」と批判する。

岩本氏は「旧統一教会の教義等には反対」としつつ「信教の自由を不法に奪う手法は許容できない」と語る。解散命令の議論が法理論・国際法へ広がる中、教団の外側から拉致監禁事案を批判する元牧師の証言は議論の射程を拡げる。本紙は岩本氏の主張を代弁するものではないが、当事者外側からの問題提起として記録する。